

足立区議会議長 た だ 太 郎 様

足立区議会議員 45 番 白 石 正 輝 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいのので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
1 政策経営行政	1 人口減少・日本人消滅の危機に対する対応について 平成元年、1.57ショックが日本の社会に激震を与えた。日本人が出生について忌み嫌う丙午の年でさえ、出生率は1.58だったが、これを下回る1.57を記録した。社会もマスコミも政治家も、このままでは日本はどうなってしまうだろうと、大変な騒ぎになった。人口研の発表によると、出生率1.45が続くと紀元3000年には日本の人口は限りなく0に近づくというのである。 エンゼルプラン等が発表され、出生率向上のため多くの人々が考えを発表したが、一年もすると、子どもを産むのは女性の権利であり、昔の陸軍であるまいし、「産めよ増やせよ」は時代に逆行する偏見だという強烈な批判があり、出生率について口を閉ざしてしまった。ある国会議員は子どもを3人は産んでほしいと発言した途端にマスコミの集中攻撃を受け、沈黙せざるを得なくなった。 昨年の出生数は初の70万人割れ、出生率は1.15と過去最低で、前年より0.05ポイント低下した。15歳未満の人口は40数年以上も減少を続けており、生産労働人口の減少は、①国力の低下、②納税の減少、③すべての社会保険制度の崩壊につながることは明白な事実である。出生率を向上させ、日本人消滅の危機を乗り越えるため、以下質問する。 (1) 子どもを産むことの大切さ、喜びを教育の場でしっかりと教えてほしいと思うがどうか。 (2) 第1子、第2子、第3子にメリハリのついた支援策をしてほしいと思うがどうか。 (3) 工藤副区長はかつて予算特別委員会で、足立区の出生率の目標
	9月9日 午前・午後10時00分受付 質問時間 20分

	45番 白石正輝
行政区分	質問の要旨
2 衛生行政	は1.4と言ったが、私は、低い目標を出せばより低い結果となると、たびたび指摘してきた。令和6年には驚くべきごとに1.0を割り0.9となった。いま、副区長はどう思っているのか。 2 医療政策について 以前、私が厚生委員長のときに、マスコミで大きく取り上げられた新しいがんの発見方法（メタロバランス検査・マイクロRNA検査）についての勉強会を開かせていただいた。がんは、足立区はもちろん、日本の死亡原因のトップであり、早期に発見すればほとんどのがんはほぼ完全に治癒できる。特に早期発見が治療の決め手であると言われている。 足立区は各種のがん検査に補助金を出し、自己負担金を少なくする政策を進めているが、がんの種類によりさまざまな検査が必要になり、自己負担金も高額になり、検査が普及しない実情にある。メタロバランス検査は、当時、全国の6つの自治体で実験的に導入されており、10種類のがんのリスクを4段階で評価する。従来より高い精度でがんのリスク判定が可能だと言われている。 （1）当時の見解では、新しい方法なのでよく研究したいと言われていたが、その後どうなっているのか。 （2）がんは1期・2期・3期・4期と、進行すると生存率が急激に下がるので、早期発見が何よりも大切だと思うがどうか。 次に、健診について伺う。 （3）足立区が区民健診について努力していることは認めるが、健診率が思ったほど伸びない。区民の皆さんが、健康についてあまり関心をもっていないためであると思うがどうか。 （4）一般健診で40％台、高齢者健診で50％台と低い受診率である。「治療より予防を」と思うと、もっと工夫して受診率を上げるべきと思うが、具体的な対策を示してほしい。